

再発見・牛久第十話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功

小川(芋銭)家系譜③

佐々木・木村・小川

―豊臣秀吉の家臣―

木村隼人佐定重と

常陸介重茲父子

木村隼人佐定重

―秀吉馬廻衆として山崎

の合戦で明智方を撃破―

天正10年(1582年)6月2日、京の本能寺において織田信長が明智光秀の謀反に遭遇して倒れ、同月13日の山崎の合戦(現京都府乙訓郡大山崎町)は、豊臣秀吉にすれば亡君信長の弔合戦であった。山崎で秀吉軍を迎え討とうとした光秀軍との戦いで、馬廻から隊將級に昇進していた神子田正治、加藤光泰、中村一氏、木村隼人佐定重らが秀吉軍の主力となって明智方を撃破した。

木村常陸介重茲

―秀吉が立身

草創期からの家臣―

木村隼人佐定重は翌天正11年(1583年)に没し、家督を子の常陸介重茲が継いだ。

これより少し前、秀吉が、織田信長の家臣として出世の階段を駆け上っている時期の記録『五宗記』に秀吉の旗本の氏名が見える。

天正6年(1578年)付

- 木下秀長、羽柴御内尾張衆 八千五百石
- 浅野長政、同右 三千八百石
- 木下家定、同右 三千二百石
- 三輪五郎左衛門、同右 一千六百石
- 三輪次郎兵衛、同右 一千五百石
- 杉原七郎左衛門、同右 一千二百石
- 蜂須賀彦右衛門、尾張衆 三千二百石
- 前野将右衛門、同右 三千百石
- 宮部善祥坊、江州衆 三千百石
- 生駒親正、美濃衆 三千石
- 尾頭甚右衛門、尾張衆 一千八百石
- 桑山修理亮、同右 一千八百石
- 加藤光泰、同右 一千五百石
- 神子田半左衛門、同右 一千四百石
- 青木勘兵衛、同右 一千二百石

- ◆木村重茲、江州衆 一千二百石
- 竹中半兵衛、美濃衆 一千五十三石
- 一柳勘左衛門、尾張衆 一千五十石
- 堀二郎、江州衆 一千石

秀吉の天下取りは山崎の戦いの圧勝によって八割がた決まった。重茲は、その後の秀吉の天下取りの軍団の一員にもあげられている。

天正12年(1584年)の尾張国(現愛知県)の小牧・長久手の戦い(小牧・長久手付近で行われた秀吉と徳川家康の合戦)の陣立書に、東の備えは、木村重茲・加藤光泰・日根野弘就、長谷川秀一、細川忠興、高山右近、中川秀政、金森長近、丹羽長重(長秀の子)ら都合2万5千との記録が見られる。

近江八幡城主43万石の大名羽柴(豊臣)秀次
―秀次付(家老格)を命じ―
られた木村常陸介重茲―

天正13年(1585年)に、羽柴秀次(母が秀吉の姉)が、豊臣秀吉より近江国に43万石を与えられ、八幡山に築城(現近江八幡市)と同時に城下町の建設にとめた。城下町が草深い琵琶湖畔に誕生し、また秀次は、山の麓に湖水を導入した堀をひらいて商業発展の基礎をつくり、これによって近江商人

が発展する土壌が培われた。今日、城下町は八幡山下町と呼ばれている。

重茲は、秀吉に秀次付(家老格)を命じられ、城下の武家屋敷の一郭に居を構えた。豊臣政権下で三中老職になる中村一氏も秀次付家臣を命じられている。



八幡城跡・全景(南東から)
滋賀県近江八幡市・総合政策
部文化観光課提供

八幡城主羽柴(豊臣)秀次側近(家老格)として仕えた木村常陸介重茲は城下の一郭に屋敷を構えていた。